

・雨でも休まず、270回、271回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動 : 10月 4日 (第一日曜日) : 小原本陣の森・団地化を目指す、弁当持参
*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
- ・定例活動 : 10月18日 (第三日曜日) : 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
*一般むき、参加費400円、主食・自分の汁椀、飲料水。
-
- *注意1 : 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
・服装 : 汚れても良い服装、着替え・滑らない靴。
・持参 : 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水
- * 2 : 危険管理・救急体制 : 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

森林：空気・水・土壌

生命体（バイオマス）の90%が陸上の植物である。海藻などもCO₂固定化にも貢献しているが、森林は地上にあって、森林の醸し出す空気・水・土壌によって全ての生物が生命を永ら得ている。

- ・[空気] : は、無色透明で感覚に触れないから意識しないが、空気・酸素なしでは、人間は一時も生きていけない。空気は、窒素78%、酸素21%、その他CO₂を含む他の元素1%で構成している。
- ・[真水] : は地球上で、年間35,700億t生産し、農業に25,030億t、工業に7,150億t、生活用水として3,540億tを消費している。このまま粗末な扱いを続けていると、2025年には、約30億人が水を求めて彷徨する事になるという。(巷に中国が水を求めて日本の山地を買いに来たと言う話を聞いた)。
- ・[土壌] : は、無機物・コロイド無機物・動物の死骸等の粗大有機物、微生物の土壌の分解者からなっている。

森林は、CO₂を固定化しつつ生長しつつ葉を散らし、様々のバイオマス（生命体）の生命を維持して、土壌をつくり、更なる無数の生命体の源となっている。その森林が毎年、「1200万 - (植林：500~600万ha)」が失われている。人間の生産活動によりCO₂排出が増大し、地球温暖化対策が世界規模で論議されているが、私は地球からのCO₂の固定化に大きく貢献する「森林減少」が重大な課題だと思っており、これが余り喧伝されないのを不思議に思っている。

当会は、神奈川県最北の相模湖町で140haばかりの森林を管理する一市民団体・森林NPOだが、一人でも多くの人々が森林減少を止める運動に参加してくれん事を願って、必死に世間に訴えて“雨でもやまず”と12年間を経過した。12年前、善意・無償のNPO活動は“世論を動かす事が出来る”と月尾嘉男先生に発破をかけられたからだ。先月、三重・尾鷲の名林業家・速水亨氏の森林を、森林仲間14人と訪問して大きな感動を受けた。そこで、一步進化した森林づくりNPO活動は何かを考え、更に効果的な、一般人の森林参加の方法を模索している。「一人の専門家より99人の普通の人々の参加」が森を救うからだ。

前日は、小原泊（古民家・永楽屋・後述）朝はノンビリ。昨夜の残り飯にインスタントみそ汁で朝食。ブラリブラリと9時過ぎに集合場所：小原の郷へ5分の距離。晴れ。

小原の郷に置くと木工班（大坪・松尾会員）はベンチ作りに既に来ており、時間の9時半には23人が集まった。班は三つに分かれ、右回りの酒井教授を班長とする美女谷尾根踏査班、点検路設営研修のため、既に基地に来ている筈の高橋林業と交流するための点検路研修班に分かれて入沢作業路を遡行した。

基地に到着してみると高橋林業はすでに、作業に入っているらしく遠くの上方山間から、草刈り機音がコダマしてくる。点検路は左回りに中里山からはいる予定だから先ず、中里山に登って音を頼りに高橋林業と合流しようとしたが登るに付け草刈り鎌の音は下方から聞こえてくる。さては、下の小林山から入ったのだなと学生一人を連れ、残り人数は基地周辺の整理とし、藪に分け入って高橋さんを探しに行くことにした。



コダマ音は本当に分からない。上方から聞こえたり下方から聞こえたりする。苦勞して藪漕ぎしていると、ヌッと山蔭から高橋さんが姿を現した。話では、我々の到着を待ってはおれないと下方・小林山入口から点検路を付けていたのだとの事。そんなこんなに行き違いで点検路研修は取りやめとなってしまった。学生たちは、基地周辺のかたづけと木工班の手伝いと収穫の少ない一日となってしまった。

美女谷尾根踏査班によると入口付近は急登攀で、道付けは不可能。手前尾根からの眺望は良く相模溪谷から右遠方に富士、左遠方に相模原平野が一望に見渡せる。

尾根は広めで緩やかな登りだが、大久保沢下方に向けて枝尾根が5～6本入る複雑な地形。酒井先生は、林道つくりのスゴ技の持ち主で今回の、踏査は林道計画のための調査で、先生の話では、主な枝尾根を調べて見ないことには方針が立たないそうだが、この山は砂礫層・頁岩で出来ているから林道は崩れやすい、ので材は索動下ろし（架線降ろし）が良いかも知れない由。

「また、度々、見に来ますよ」、そして「森林整備活動を12年間も続けてきて、本格的な集約施業に取り組もうとしている、緑のダム北相模の森林活動は、他では見かけない面白いケースだから、記事を林業現代に掲載させて頂きます。了解下さい」とおっしゃる。ハイ、一向に構いません。

酒井先生のような当代随一の林道碩学が、林業業界を代表する「現代林業」に執筆下さるとは、これはまた、光栄なことだと思う。



小原定例活動日

Forest Nova☆ 麻布大学 2年 神宮理沙

この日は、他大学の教授や学生さん、Forest Nova☆のOBが参加しており、普段よりにぎやかな朝の挨拶となりました。小原の郷の前で朝礼を済ませてから山へと入りました。本当なら高橋林業の方と合流して山へ入る予定だったのですが、高橋さん達はすでに山で作業を始めたとのことで、基地に着くと刈払い機の音が遠くから聞こえていました。

生命の森の方はいつものように中里山での作業を行うために経路を登っていきましたが、石村さんや Forest Nova も高橋さんと合流するために一旦中里山の方へ行きました。しかし高橋さん達の使う刈払い機の音は離れていき、中里山に着いても合流することができませんでした。石村さんは高橋さんを探すため、中里山を抜けて山の反対側へ渡り、Forest Nova は中里山で見つけた掛かり木を外す道具を取りに基地へ戻りました。

基地に戻ったところで時間はもうお昼だったのでここでご飯を済ませ、基地に戻ってきた川田さん達と、高橋さんを見つけたという石村さんが戻って来るのを待っていました。その後、川田さん達は地主さんと山を再び登り、Forest Nova は小原の郷で作業をしている木工班の方達のお手伝いをしに行きました。木工班は今、小原の材でベンチを作る作業を行っています。

この日の作業はここで終了しましたが、次回は経路をものすごい早さで作っている高橋さん達と合流したいと思いません。



写真左の階段は Forest Nova が作成したもの。右方向に伸びている道は高橋林業が作成しているもの。

NPO のミッションステートメント（使命宣言）

NPO の使命宣言は、独自の・先駆的・公益的なものです、この宣言の構築要件は、信念、機会〈社会のニーズ〉・能力です。それはまた、時代を超える真理を含み、何時の時代でも社会からも受け入れられる普遍的なもので、通常の実力ではなかなか達成できそうにはないけれども、社会を引き付けるロマンを感じるものでなければ、いつしか忘れ去られる事になります。そのような条件を満たす為に当会の共有するミッション（使命・行動理念）を、「緑のダム北相模の三原則」としています。

- 1 「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」
- 2 「環境・経済が無理なく調和する地域社会の具現化（FSC ガイドライン）」
- 3 「持続的な森林経営のための森林産業の創出」

学生連合 ForestNova は当会のミッションステートメントや良し！と共鳴して一緒に行動してくれています。この学生たちに希望の未来がある事が、私たちの心からなる願いでもあります。（石村記）

Forest Nova☆は今年も川崎の新鶴見操車場跡地で行われる川崎ネイチャーフェスティバルに参加します。これは毎年 NPO 緑のダム北相模の方々が出展しており、『木を使うことは森を守ること』をテーマに主に森林問題についての情報を発信しているイベントです。参加者は親子が多く、去年は 2 千人ほどの方々が訪れました。Forest Nova☆も今年で 3 度目の出展になります。

今年も毎年出展している木の時計づくりと、更にドアプレート工作とパンづくりを行います。木の時計づくりとドアプレートづくりは私たち Forest Nova☆のメンバーが普段活動している相模原市にある嵐山にて、実際に間伐した木を製材し(右写真)、それに木の実や木の枝を使って参加者にオリジナルの時計やドアプレートを作ってもらいます。また、この時に紙芝居を使って間伐についての現状を説明したり、情報を発信していきます。



パンづくりは竹や木を使って参加者にパンを焼いてもらう企画です。去年はバームクーヘンづくりを行ってとても好評でした。今年にはパンに挑戦します。直火でパンを焼くのは普段はなかなか体験できないことですので、楽しめる企画になればと思います。去年のバームクーヘンのように親子の絆も深まればいいなと思います。前回の嵐山定例活動にてパンの試作をしたのですが良い感じに焼けていました。好ご期待です。

(↓下の写真がパンの試作の様子です↓)



本番は 9 月 26 日の土曜日に行われる予定で、現在着々と準備を進めています。このイベントを通して間伐について外部へ広めていけたらと思います。

過日の川崎国際交流会館での「海から河・森へと続くグリーンベルト：シンポジウム」で、阿倍市長は「もっと、みんなで力を合わせて、水源の森を大切にしていかなければならない」と言われた。11年前、当時の溝口相模湖町長とご一緒に阿倍市長にお会いして、川崎市の飲料水や電力は相模川から行っているのだから、もっと山に想いを致して欲しいとお願いした。相模原市の宮崎副市長も、水源の森を守っていかねばならぬ重責について、皆様のご協力なしには困難だと訴えられていた。11年前の約束を覚えておられた阿倍市長には、席上からお礼を述べさせて頂いた。川崎でのこの森林広報イベントは、今年が最後になるが、上流・中流・下流をつなぐお役に立てたことを嬉しく思う。(石村記)

雲一つない快晴、参加申し込みは62名であったが、飛び入り参加を合わせて70名もいただろう。特に初参加が12名であるから、斎藤・緑のダム森林体験学校長が午前中は、臨時の森林散策講習会を開催してくれた。



今回は、酒井先生（東大）も参加されたが、桜井先生（日大）とは旧知の仲。「やあやあ、お久しぶりです。

思いがけないところでお会いしますなあ」。東海大の杉山先生もお久しぶりの参加。それに東大大学院生2名も当会活動を修士、博士論文に取材。三先生とも東大出で、川田隊長も東大出で、この日、東大閥の様相。

高橋（高橋林業）さんは、山梨県の林業指導員をしていたとの事で、この日午前中は、希望者には自然公園法と自然保護センターの座学。実学の視点からの「枝打ち実技」を交えての講義だから退屈する事はなかった。が、折角の森林活動を楽しみに来たのだから、森の中でやってとの希望あり。では、来月は、そんな工夫もしてみましよう。

望星の森班は、桜井先生の植生調査実験。ノバ班は、B地区に生態系調査、木工班は小原の郷に出張ベンチ作り。

小原の榎本製材所が廃業するらしいと聞いて、金子会員（金子建設経営）が現場を見たいと言うので案内した。往路は車で言ったが帰路は、弁天橋経由で森に戻った。



新宿から1時間でこんな風景がある（弁天橋から相模溪谷）

弁天橋からの風景は、なんとも美しく、東京から1時間の距離にこんな秘境が見落とされているとは勿体ない。

終礼後は、東大院生に捉まって質問攻めに合った。課題は「森林NPOの自立」・・・毎日新聞社の宿題だから、一緒に考えようと良い塩梅だ。

緑のダム・湘南の森・定例活動 報告 岩澤由美子

9月11日・活動・晴れ：参加4名

作業前に道具保管箱（物置）設置予定の場所を確認しながら、隣の建物を利用されている方々にご挨拶し、辺見会員が物置設置の注意事項を聞き取り調査した。アドバイスは、雨・風・いたずら等々の対策が必要ありとの事でした。

午前中は、手作業だけの活動となりましたが、崩れた展望台のあるフィールドが見違えるように綺麗になりました。田賀会員はお昼までの作業参加でしたが、随分と馬力があってビックリです！。ランチ後に皆でフィールドを見回り、“あの荒廃杉林を将来に向けてどうしようか”と佐藤会員がやる気満々！枯れた木木の整理から未来が展開しそうですね。また次の定例活動日26日に皆で計画を練りましょう。

午後は、浅間神社の裏斜面の道付けして活動は終了し、拠点・ともしびショップで反省会開催。

ハイキングコースでは、地元のハイカーの女性たちと知り合えてよかったですね。

佐藤さんの背中にナナフシがずっとへばりついて一躍人気者でした。

帰りにハイカーのオバサマに教えて頂いた山ランを見ました。小さくて健気でした！



* 物置が完成しました。

報告 佐藤 憲隆

16日、岩澤・辺見・佐藤の3名と業者1名による物置の設置に立会しました。コンクリートのアンカーに金具本部を固定し組み立てを開始、最後にアンカー一部にセメントミルクを流し込んで設置は完成しました。9時開始、終了11時半でした。早速、岩澤会員宅に保管してあった刈払機やヘルメットなど、ともしびショップの物置きに置かせて貰っていた道具類を収納、最後に刃物類の錆び止めスプレーでクリーンアップして作業を終了した。

これで次の作業日からは道具類をスムーズに利用できます。今まで、岩澤さんと岩澤家にはご苦勞、ご迷惑をあかけしました。ありがとうございます！！。ともしびショップにも感謝です。次回作業日には心ばかりの品を持参します。

* 平塚市民；観察会計画（下見）

11月1日に実施予定の平塚市民を対象とする、「湘南の森観察会」の下見を下記により実施します。この下見の結果を当日配布資料に織り込む予定です。良い勉強になると思いますので興味のある方、参加ください。

日 時 10月14日 10:00~15:00

参加者：内野（観察会リーダー）、佐藤（同世話役）

集 合：大磯駅10:00. 解散は15:00頃

コース：高田後援～湘南平～浅間山～高麗山～高来寺

相模原市・校長会：森林シンポジウム

8月25日（水）、午後2時から、相模原市の小学校長72名を集めて森林を考えるシンポジウム（清新小・

山本校長会長・司会進行に越ヶ台小・金山校長）が、相模湖交流センターで開催された。

パネラーに緑のダム・石村、林業家佐藤さん、相模湖の荻野さん、篤農家の井上さんを得て、夫々の環境問題に掛ける想いを相模原市の校長先生方に熱く訴えた。



このシンポには、小学生に森林指導をしている当会の斎藤会員も駆けつけてくれて、実際の子供の森林活動の様子を話してくれた。また、当会は、定期的に一般人を対象に「緑のダム体験学校」を開いており、森林現場の指導のベテラン斎藤さんの話には迫力があって、出席の校長先生方には大きな感動と共感を与えた。

当会は、相模湖の桂北小でも「森林体験学校」を指導しているが、林業家佐藤好延さんは、津久井地区で体験学校を実践している。また、上流では北都留森林組合が、かなりの規模で運動を推進している。明らかに10年前とは、環境に対する取り組みは大きく前進しており、今回のように相模原市の校長先生方が一堂に会して話し合うなどは、正に隔世の感である。当会が活動を始めた1998年頃は、ここの小学校では「森は怖いところだ、行ってはいけません」と教えていたし、行政は当会の活動を“森を荒らす行動だ”と妨害していた。

森林広報活動は、地道で遅遅として進まぬかのように見えているが、今回の校長会のように世論は、“森林を大切なものだ”と行動を起こし始めた。正に、隔世の感だ。

小原の郷・緑のダム合宿



相模湖・小原町の山林地主・旧家の永井広樹さんが「小原定例活動日の前の日、第一土曜日にうちに泊まりに来ないか」お誘いがあった。普段は、池袋に住んでいるが空家になっている小原の家には風通しに週末は、戻ってくる。永井家は通称・永楽屋と言って250年も前からの古民家であるから、興味も津々（しんしん）同好の6人を誘って土曜日夕方から出かけた。

建物内部の様子、細部は描けないが、全体的に黒光して支柱は4寸角。隅から隅まで磨き上げてある。特に素晴らしいのが、枯山水の裏庭と堂々たる土蔵が2棟、やはり、歴史由緒あるお宅の構え

は、都会の喧噪のなかに住んでいる我々、凡人の住まいとは趣が、ガラリと違う。

参加者の中の片又会員は、元築地魚市場・場内仲卸の元締めだったとかで「では、名刺代わりに飛切りの魚を持参致しましょう」と保冷BOXから取り出したのは、生・本マグロの大塊り。筆者も若い頃は築地市場の売買参賀者をしてきたからこの「生・本マグロ」の如何なるものかは見当が付く。

片又会員は、調理師・寿司職人の免許を持っているとかで、見事な包丁サバキを見せてくれる。脇で見惚れていると「チョッとこいつを・・・」とマグロの一片を食ってみな！と味見させてくれる、(東農大の小泉先生式に言えば)、「即席・味覚人飛行人間・吾輩のもその風味の良さに悶絶」したのだ。

どうやら、緑のダムが今日は宴会をやるらしいと聞きつけたご近所の方々が、手に手に例えば、極旨・種子島安納芋焼酎とか、3年仕込み熟成辛子みそとか、畑から直行便のトマト・きゅうりなどの差し入れ等など。「まっ！一緒にどうぞ」と大賑わいの席に飛び込み参加の面々。酒は旨い、調理はとびきり、飲むほどに酔うほどに何を話したかは覚えていない酔魔亭は大繁盛。夜半、丑三つの頃には、睡魔に襲われて三三五五、打ち寝と相成った。

ここで言いたいのは、森林ボランティア・緑のダム北相模と小原町町内会との人々との最高の友好関係である。来る十一月三日(文化の日)に当地で行われる「本陣祭」にも緑のダム会員は、大勢して繰り込むぞ。

活動紹介：パートナーシップ市民フォーラムさがみはら

報告 吉田恒久

今年4月から「小原本陣の森」で緑のダム北相模と相模原市が共同事業をスタートしましたが、この事業を支える略称・「市民フォーラム」の役割の一旦を紹介します。

・一つは協働事業の支援です

具体的には、提案事業者に対して企画が提案事業制度の乗るようにコンサルティングすること、採択された事業のフォロー支援活動。また、市民みんなの協働の芽・協働のアイデア提案を登録・公開して協働事業提案の企画に結び付ける支援です。

・次に制度運営の一旦を担う事です。

具体的にはニュースレター、広報紙、ホームページでの制度の広報活動。協

働事業推進に係る勉強会、懇談会の開催。公開プレゼン、公開中管ヒヤリング、採択事業のまとめである公開事業報告会などを行政と共同で行います。

このような活動をする市民フォーラムは、相模原市民、市内で働き学ん活動をされている方々で運営されています。多くの仲間の参加をお待ちします。



(先月、市民フォーラムの方々4名が小原本陣の森を訪ねて見えました。これを編集者石村は、オンブズマンと紹介しましたが、市民フォーラムの方々には事業の支援者です。ニュアンスが違っていたので改めて、紹介とします、石村記)

今年は「望星の森」でも、サイエンスパートナーシッププロジェクトという助成事業で植生調査を行っていることもあり、経済界が生物多様をどのように考えたかをく知りたく参加した。同時に自然保護団体によるポスターセッションもあり、石村さんと FSC 積み木やパネル展示をおこなった。

主な講演は2010年に名古屋である「生物多様性条約コップ10」のアドバイザーをされている名古屋市立大の香坂先生でした。生物入門という事でしたが、生物学的視点というよりも「生物の多様性と企業の関係」を中心に話された。「生態系サービス」という始めて聞く単語でしたが、単に生物資源の利用というだけでなく、4つの視点があるということでした。その4つの視点とは、

- 1 生物資源そのものの意義、
- 2 人間が生きていくための基盤である。
- 3 気候変動や汚染物質の「緩和」する働き
- 4 文化精神面、観光など文化そのもの

他にも何名かの講演があり、更にポスターセッションでは企業サイドで参加されていた懐かしの”損保ジャパン “の方とも話が出来た。公募中の助成金の紹介を頂き、応募しようかと次の事業について考えています。



今月・直近の予定

- ・ 9月26日(土) 第六回川崎ネイチャーフェスティバル、新川崎・パイオニア敷地内 午前10時～
- ・ 27日(日) 小原活性化会議、小原公民館、午後2時～
- ・ 29日(金) 「森の駅」発足式、新橋・ギャラリー集、午後2時～
- ・ 10月 4日(日) 小原本陣の森：定例活動、午前9時30～
- ・ 12日(月・祭) 小原活性化推進会議、小原公民館、午後3時～
- ・ 18日(日) 若柳嵐山の森：定例活動、午前9時30分～
- ・ 18日(日) 山なみまつり、相模湖総合運動場、午前10時～ (みんなの森協力)
- ・ 29日(火) FSC審査：若柳嵐山の森、午前10時～

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模
 事務局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9
 発行人 : NPO 緑のダム北相模・運営委員会 : 03-3411-1636
 H P : <http://midorinodam.jp>
 E-mail : info@midorinodam.jp
 協働団体 : 神奈川県(政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金、相模原市(市民協働推進課) 毎日新聞社(水と緑地球環境本部) JFEメカニカル
 ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、東海大付属・望星高校